

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月20日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 委 員 長倉 守 岐阜大学大学院教育学研究科准教授
奥村 篤 各務原市立中央中学校長(欠席)
小川 陽子 新生こどもえん園長
尾関 淳 各務原市 市長公室 町づくり推進課 課長(欠席)
堀 善子 各務原市教育委員会総務課 ふるさと教育アドバイザー
檜田 邦繁 本校PTA会長

学 校 側	細井 恒樹	校長
	溝下 肇	教頭
	関谷 十糸子	教頭
	堀 美和子	事務長
	美濃輪 智彦	教務部長
	松久 潤	生徒指導部長
	原 裕子	進路指導部長
	片桐 豊	渉外部長

5 会議の概要(協議事項)

- (1) ふるさと教育について
学校側の説明
・今年度の活動状況について

意見1

- ・「ふるさと教育」の具体的なテーマをいくつか教えてほしい。
⇒テーマのうちいくつかを以下に紹介する。
「規格外エンジンの活用方法とは？」
「おがせ祭りを存続させていくための具体的な方法とは？」
「航空産業をこの街の魅力としてPRする具体的な方法とは？」
「蛍が育つ環境を維持するための具体的な方法とは？」

意見2

- ・テーマは教員が考えたのか、それとも生徒が考えたのか。また生徒の希望は反映は反映されているのか。

⇒テーマは地元の方のアドバイスを基に学校側で設定した12のテーマである。取り組むテーマを選ぶにあたっては、昨年度末に各テーマそれぞれのプレゼンテーションを聞き、各自の希望を踏まえて最終的に決定をした。

意見3

- ・各テーマに対する取り組み方は同じか。仮説を立てるとか。
- ⇒取り組み方はテーマごとに異なるが、改善策を1つ以上提案し、発表（プレゼンテーション）をするという点は共通している。

意見4

- ・生徒が成果を発表する場はあるのか。
- ⇒ある。今年度は1月に予定している。

意見5

- ・結論より途中の過程を大切にしてほしい。

意見6

- ・地域の方（アドバイザー）からは学校に入りやすくなったという声を聴いている。

意見7

- ・生徒の興味の有無により、成果も変わってくる。プレゼンの出来映えだけではなく、中身も評価してほしい。そしてストレス耐性も含め人間としての成長も大切にしてほしい。

（2）授業改善について

学校側の説明

- ・本校でのICTの活用について

意見1

- ・ICTの「百問繚乱」の利用について、設問ごとの正答率を出して授業等にフィードバックをしているということだが、全教科でやっているのか。
- ⇒すべての教科ではないが、例えば数学では客観的なデータとして教科内で共有をし、正答率の低い設問は確認し、課題にするなどの対策を行っている。また、試験に再度出題して定着を図るなどもしているが、従来に比べやりやすくなった。

意見2

- ・各務原市内の小学校中学校ではタブレット端末をかなり活用しており、高校進学後もタブレット端末に精通し、使いたがる生徒も増えてくるであろう。そうした状況の中で職員研修はどうしていくのか。

⇒ICTの活用が主（目的）になってはいけない。生徒の理解の支援となるようにしていきたい。教員の研修は少しずつ増やしていく。また10月にはICTを活用した公開授業が2回（国語と保健で各1回）が行われ、職員同士の交流も行っている。一方、ICTの活用を推進していくにあたり、課題もある。例えば

- ・校内のインフラの整備（全員同時にアクセスできない）
- ・管理する教員の負担解消（教員だけではなくSEなど専門家の配置）
- ・働き方改革との矛盾（教材準備にかける時間）
- ・財政面の支援など

可能な範囲でICTの有効な使い方を検討しつつ、うまく利用していきたい。

意見3：ICT教育は、現在、必要となる大切な教育であると感じている。実際に公開授業などを行いその充実を努めていただいている点を評価したい。新たな取り組みとしてICT授業を行うのが大変だが、引き続き「わかる」ICTの活用に向けた授業の充実を図ってほしい。

(3) 進路学習について

学校側の説明

- ・進路指導に関する行事（キャリアガイダンス等）について
- ・「進学指導重点校事業」について
- ・全教員体制での面接指導・小論文指導について

意見1

- ・きめ細かい指導が行われている。就職等の面接では人間力・対応力が必要である。そのためにも生徒にはふるさと教育を通して「語れるもの」をもってほしい。

(4) 学校評価アンケートについて

学校側の説明

- ・アンケート結果の分析（概要）と学校独自項目について

意見1

- ・アンケート（生徒対象）の1（「本校の教育方針・指導目標についてわかりやすく説明を受けている。」）に注目したい。この項目の評価が上昇しているということは、学校のビジョンという点で評価できる。スクールポリシーは子どもにも意識させたい。もっと共有して行ってほしい。

意見2

- ・生徒・保護者等とも、学校からのメール配信等には評価が高い結果となっており、学校からの速やかな情報発信に努力している姿が伺え、すばらしい。

意見3

- ・生徒が、「本校に入学できてよかった」、保護者も、「お子様はよろこんで学校に行っている」の問いには、良い評価であるとともに、令和3年度からもポイントが上昇していることもあり、生徒が学校生活を充実できる環境作りが着々と進められている。

意見4

- ・生徒が「地域に興味を持っている」の問いに対する評価が高くないのは残念である。地域活動やまちづくり活動について各務原市との連携を強め、一層を支援を受けられるとよい。

(5) 学校運営全体（スクールポリシー等）について

意見1

- ・教職員の一生懸命さが伝わる。1年生は新教育課程になったが、時代の変化に対応するように教材研究している。例えば国語の言語文化は暗記だけでなく、言語の文化（音や調べ）に親しむようにしている。

意見2

- ・意欲より意志が大切であり、生徒に情報開示（今日は何を学ぶかというゴール）を表示しなければ

ばならない。(授業は行き先のわからないミステリーツアーではない。)したがって、生徒に授業を枠組みを伝え、授業を通じて創造性を育てていかなければならない。またそれを評価につないでいく必要がある。

意見3

- ・学校という場で、人との出会いを通じて自分は何ができるのかを考えさせたい。

意見4

- ・小論文指導を通じて形式だけでなく中身も含めて育てていけるとよい。(in(～の中で体験する), about(～について考える), for(～のために貢献する)を意識する。)

意見5

- ・教育目標・スクールポリシーにそれぞれが自分の立場でどのように関わっておられるのか。
⇒ふるさと教育では地域を意識し、チームで探究、協同を実行していく。
⇒教務の立場では、基礎学力の定着をさせ、自己肯定感の育成をしていく。
⇒生徒指導では自己存在感・有用感を育てていく。また、共通理解を図り、「ダメなものはダメ」の考えで、「凡事徹底」をしていきたい。そして、言葉かけにより、褒めたり励ましたりしていきたい。
⇒進路指導では自分で(自身で)考えさせる姿勢を大切にしたい。

意見6

- ・「開拓者精神」もいい教育目標である。3つのキーワード(協同、挑戦、創造)を生徒たちに理解させ、目指すところをを生徒向けに発信していき、年度末に向けて検証して行ってほしい。そして、アドミッションポリシーは高校入試の面接などでも意識してほしい。

意見7

- ・学校運営協議会について、形骸化を脱し、学校経営に外部の方の意見を取り入れ、生徒を導いていくのに利用してほしい。

6 会議のまとめ

- ・今後はスクール・ポリシーを一層周知するとともに、教育活動に反映されていくよう一層意識を高める必要がある。
- ・地域の方や有識者から得た意見について、取り組めることや変えられることについては実行へとつないでいきたい。